

様式 2

第 4 回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 審議会名 | 第 4 回安曇野市行政改革推進委員会 |
| 2 | 日 時 | 平成26年11月 7 日 午前10時から午前12時まで |
| 3 | 会 場 | 長野県安曇野庁舎 3 階第 4 会議室 |
| 4 | 出席者 | 降旗会長、伊藤副会長、市川委員、高橋委員、保尊委員、那須委員、望月委員、丸山恭弘委員、降旗幸子委員、中山委員、山崎委員 |
| 5 | 市側出席者 | 藤松総務部長、花村総務管理課長、鎌崎総務管理課長補佐、丸山行政担当係長、伊藤主任 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 2 人 記者 0 人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成26年11月19日 |

協 議 事 項 等

- | | |
|-----|--|
| 1 | 会議の概要 |
| (1) | 開 会 (伊藤副会長) |
| (2) | あいさつ (降旗会長) |
| (3) | 協議事項 |
| ① | 第 3 回会議録の確認 |
| ② | 前回の資料要望に係る資料の確認について |
| ③ | 答申(案)について |
| ④ | 第 3 次行財政改革大綱に向けた提言について |
| (4) | その他 |
| (5) | 閉 会 (伊藤副会長) |
| 2 | 審議概要 |
| (1) | 第 3 回会議録の確認 |
| (2) | 前回の資料要望に係る資料の確認について |
| | ○スケールメリットについて |
| | ○紙で保有する文書量 |
| | ・紙文書の保存期限が来ているものはあるのか。 |
| | →ある。保存年数は、永久保存、30年、次が10年、5年、3年、1年となっている。 |
| (3) | 答申(案)について |
| | ○題目「持続可能なまちづくりに向けて」について (資料 2) |
| | ・単に「持続」だけでは、八方塞がりのようなイメージを受けるのではないか。元気で希望が持てる市のイメージも加え、「発展・持続可能なまちづくり」としたらどうか。 |
| | ・発展を加えるのは、前向きな形で良いと思う。 |
| | ・持続可能だけでは現状維持と取られがちなので、発展という言葉を入れた方が良いと思う。 |
| | →「発展・持続可能なまちづくり」へ修正 |
| (4) | 第 3 次行財政改革大綱に向けた提言について |
| | ○人口増加に向けて |
| | ・松本市や夢先案内研修制度を利用して婚活推進をしている長野市のように、具体的に安曇野市に住んでもらえるような策を盛り込んだ方が良い。 |
| | ・人口減少対策として、移住・定住促進という側面を入れた方が良い。 |
| | ・移住定住を進めるには、就業する場所を確保することが重要である。ソフト産業で開発するような人を呼び込む方策が必要である。 |

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

- ・少子化対策として、働く場所が必要である。現存する企業の育成、企業誘致を提言に入れた方が良い。田園産業都市の安曇野市であるので、企業の一つである農業の育成も必要だと思う。
- ・人口が減り、消滅する市町村が出てくる状況下であるため、人口増加をまず第一に謳うべきだと思う。
- ・「働く場所」というのを工場等としてだけ捉えるのではなく、介護を見すえたビジネスも職場として捉えた方が良いと思う。
- ・年金問題も係わるため、出生率をあげることに触れた方が良いと思う。
- ・若者の人口を増やすために、大学を誘致すれば良いと思う。
- ・海外の富裕層の別荘等が多いニセコのように、豊富な自然環境を活かして、そういう人たちが移住や長期滞在したいと思わせるような環境にして地域の底上げを図れば良いと思う。
- ・安曇野市独自の人口推計を作る必要がある。

○自治体間競争について

- ・人口増対策と産業活性化対策の必要がある。職住がエリアの中で確立することが理想であり、土地利用も含めた戦略的公共経営が、自助努力による財源確保にもつながると思う。

○新本庁舎開庁について

- ・新本庁舎が開庁することによって、まちづくりが良くなったと思える取り組みを提言するべきである。

○協働によるまちづくりについて

- ・市は市民に対して、「自分でできることは自分でやる」「負担してもらうものは負担してもらう」という説明をするべきである。
- ・協働を突き詰めれば、職員数を減らすことができると思う。

○職員意識について

- ・テレビ等で取り上げられている「スーパー公務員」のように、住民からの要望があった時、解決や実現可能な方法を答えられるような職員が増えれば、職員数を減らすことができると思う。
- ・安曇野市の職員は、旧5町村と市になってからの採用者と混在しており、事務能力等のバラつきがあるように感じる。優良企業や先進モデル都市に職員を派遣する等し、意識改革と資質の向上に努めるような方が重要だと思う。
- ・職員同士のコミュニケーションをはかり、信頼関係を築くことが肝要である。

○リスク対策について

- ・30年以内にマグニチュード8の直下型地震が起こる可能性が25%ある地域なので、ハード、ソフト両面で地震に対するリスク対策をしないと企業や人が来てくれないと思う。

○スクラップについて

- ・不要な施設についてはスクラップするべきである。
- ・事業の見直し（本来市としてやるもの、アウトソーシングするもの、スクラップするものを分類）が必要である。

次回の日程・・・12月5日を予定